

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
19	川崎市立住吉中学校	小松 英光

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1 豊かな心を持つ人 2 深く考える力を持つ人 3 健康なからだを持つ人 4 進んで実行する力を持つ人 5 勤労を好む人	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育を基に、一人ひとりの生徒を大切にしたい学校づくりを推進する。 ・教科指導を通し、「わかる授業」など魅力ある授業を工夫・実践する。また、教師の指導力を一層向上させ、生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けさせる。 ・教職員としての資質とスキルの向上を図り、キャリア在り方生き方教育を中心とした教育実践を推進する。 ・生徒が学習しやすい教育環境の整備に努める。 ・家庭と地域との連携を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立・道徳教育の充実・いじめや暴力は許されないという学校環境の確立。 ・ユニバーサルデザインを考えた授業の工夫(学習目標の提示、消えない手ごわりの工夫=板書・資料等)、意見・意図の共有。 ・校内授業研究の推進(教科の指導力向上)。 ・危機管理体制の整備、情報管理の徹底等を図り、清潔で豊かな心を育む環境づくり(清掃活動、美化活動、掲示物の工夫)に努める。 ・学校ホームページ公開による情報発信の推進。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが望ましい人間関係を築けるように支援し、細やかな生徒指導が充実できるように努めている。 ・教育相談期間を設定し、生徒理解に努めている。 ・生徒会を中心に学校生活上の約束事等の見直しに取り組んでいる(標準服や体育通学靴等の見直し等)について、生徒総会で話し合いを継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長欠傾向にある生徒への対応として相談室を利用した、別室登校による学習支援と教育相談を実施している。 ・学校へ通うことが楽しいと思っている生徒の割合は高水準を保っている。 ・丁寧な時間をかけて教育相談を行っているが、生徒一人ひとりの相談に適切に応じたり、組織として対応したりする体制やあり方についての検討を継続する。 ・相互にあいさつし合ったり、ルールやマナーを意識して思いやり深い行動がとれていると感じている割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を重ね、生徒理解を基盤とする支援教育の充実を図るために、引き続きCOを中心とする校内の柔軟な支援体制の強化に努める。 ・学校サポーターや教育ボランティアの増員により、支援の幅を広げる。 ・生徒のニーズに応じた教育相談活動を目指し、年間行事予定への明確な位置づけと、相談申し込み方法の簡略化に向けた見直しを継続していく。 ・学校生活の中心に生徒会活動を据え、生徒の思いや要望等を尊重し合いながら、身近であり、切実な改善点への到達を引き続き模索する。
2 教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に基づく各教科の指導計画の立案、実践を行っている。 ・各教科とも学力向上と、授業改善の一層の充実をはかるため、教科会を設定し、情報交換を行っている。 ・少人数指導の充実を図っている。 ・個に応じた学習方法の工夫改善に努めている。 ・一部活動DAY、定期テスト前等に計画的な学習支援活動を行っている。 ・定期テスト問題の形式を揃えたり、ルビをふる等の配慮を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業に意欲をもって取り組んでいる実感は高い。 ・基礎・基本の定着を取り組むため、校内授業研究会を実施し、教科をこえて授業を参観し合い、意見交換することで授業力向上に向けて取り組んできた。臨時の任用・非常勤の方を対象とする研修等にも取り組んでいる。教育実習生の受け入れも積極的に行い、指導教官として支援にあたることを通じて、教科や学級経営、教育相談等のスキル向上を図った。 ・学校での学習で「わかった」「理解できた」と感じる素直な生徒の割合も多いが、「わからない」「十分理解できない」と表現できる場の設定に努め、ユニバーサルデザインを意識した授業に向けて、日々の指導改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への意欲が高まるようにICT等を活用し、生徒の興味関心を刺激するように努める。 ・GIGA端末活用についての研修を定期的に行い、教員個々の指導技術を高める。 ・サマースクールを実施したり、定期テスト前の学習会及び朝や放課後の学習支援に取り組んだりして、個々の学力を高めていくように努める。 ・生徒の発言が活発になるように、行事や学級活動を通して活動計画を立案し、生徒が意見を言える場や時間の確実な設定に務める。 ・相談室等での別室登校や個別学習等からの情報をチームとして共有し、適切な支援に繋げているように努める。
3 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止徹底を図りながら、キャリア在り方生き方教育を進めた。1年時で職業調べインタビュー、2年時で職場体験(キャリアチャレンジ)、3年時で高校見学などを通して進路について考え、将来の夢を抱いていけるような進路指導を計画した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止対策を見据えたキャリア在り方生き方教育を実施することができた。 ・進路に向けた学習状況について、家庭との共有に努め、学校と家庭が協力して一人ひとりの生徒の進路選択に向けた協力体制を築いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア在り方生き方教育を進めるため、各学年の生徒が学年毎の取り組みを共有するために文化祭で発表の場を設定した。引き続き見直しを図っていく。 ・進路情報を学年及び家庭にも公開していく。 ・ウェブ出願等受験方法が多様化する中、教員間での進路指導に対する知識を共有し、適切に対応できるようにしていく。
4 安全管理 健康管理 教育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の健康・安全を守るため、教職員間の意識を高めるための研修を実施し、事故等の防止に努めている。 ○危機管理マニュアルを作成し、危機管理意識を高めている。 ○管理部を中心に全員で協力して学校全体の環境整備に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生整備事業終了後の設備管理に細心の注意を心がけ、改善点については迅速に対応するよう努めている。 ・清掃については生徒も教職員も工夫しながら取り組んでいる。 ・危機管理意識については、生徒の意識を高めることが課題であり、洪水ハザードマップを用いた学習や区役所危機管理担当と連携した防災出前講座を実施し、啓発を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生活しやすい環境にすることと地域に開けた地域の中の学校としての役割が ・全うできるように、関係部署との設備の改修計画に取り組んで行く。 ・事故や怪我について迅速で客観的な状況把握を行い、再発防止に努める。 ・地域との連携を強化し、避難所運営会議、防災訓練、避難訓練等を計画的に開催していく。
5 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの教育的ニーズに応えるように支援を行っている。 ○特別支援教育センター指導主事を招いて校内研修会を開き、教職員間の共通理解を図るとともに、具体的な指導の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・COが中心となり、生徒一人ひとりに配慮した支援が届くように努めた。 ・教員の担当授業時数や働き方改革の推進など、引続きの改善と工夫を要する。 ・思いやり深い人間関係を構築するために、「気づき・考え・行動」することを実践していけるよう今後も工夫して様々な体験の場を設けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室との連携を密に行っていく。 ・集団生活に適應することを苦手とする生徒への関わり方を、関係する諸機関とも連携を図りながら、充実させていく。
7 組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動における教職員間の資質や指導力の向上に取り組んでいる。 ○様々な行事の見直し、新たな形式での実施に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と教員間の情報共有を密にし、連携を深めている。 ・保護者全員が参加できない状況の中で、情報が行き届かないことへの改善に努めてきた。 ・必要な行事を精選・充実させる工夫をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌における役割分担については、適材適所で活動できるように改善し、連絡・報告・相談を行っている。 ・学年・学級懇談会を利用し、今後も情報交換を密にしていきたい。 ・生徒の安全を第一に、より生活しやすい学校環境作りを目指していきたい。
8 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開週間や授業参観をおこない、保護者や地域との連携を図ることを意識した取り組みを実施している。 ○学校評価アンケートや学校教育推進会議にて、教育課程の検証に取り組んだ。 ○学校運営協議会を立ち上げた。生徒の声を拾い上げ、地域の声を広げていく。 ○行事の内容を精選し、効率化を図るとともに、必要な学業にかかる時間を十分に確保するように努めた。生徒会活動の一環として、部活動の位置づけを再確認し、地域への移行を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会や授業及び学校行事への参観を通して、学校が開かれていることを保護者や地域からの理解が得られるように努めた。 ・学校教育推進会議は対面開催という形で行い、地域・保護者から教育活動に対する意見をいただき、生徒代表との意見交換も行われ、教育活動に反映することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ情報を伝達することを通して、学校は開かれた参観できる場であることの理解を促す。 ・学年・学級懇談会を利用し、情報を交換する場を設定する。 ・ホームページの更新は定期的に行ってきたが、より一層の発展に努める。 ・行事検討委員会を充実させ、引き続き学校評価アンケートに基づく教職員の年間反省を具体的な計画に盛り込み、次年度の課題を明確にする。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶が自然に溢れている。 ・社会に出た際は多様な考え方に応じてマナーを守りながら、より良い生き方が出来るような生徒に育ててほしい。そのためにも学校生活上の指導や支援については引き続き大切にしてほしい。 ・授業への創意工夫や改善に努力していくことが今後も大切である。 ・一人ひとりの生徒が思っていることや考えていることを発信し、周囲の大人(地域・PTA)が受け止めたり、対策に関わり合うことで自ら・自立の精神を伸ばしていってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者との信頼関係確立に向け、地道に適切な情報提供・共有を図り、相互理解に立つて関係性を構築してきた。 ・授業評価の透明性をさらにすすめて、校内外の研修を通して、授業改善を積極的に行い、基礎・基本定着を徹底していく。 ・教職員間での教科会や相互の授業参観をすすめることで指導力の向上を図り、一人ひとりの生徒の状況に応じた、わかりやすい授業の構築に努めていく。 ・清掃活動や掲示物の工夫に一層取り組み、整備された学校を大切に受け継ぐことで、日々を生徒の情操を育てる機会とする。 ・学校ホームページ公開による情報発信を定期的に行っていくように努める。 ・今後は、PTA活動や学校運営協議会・地域教育会議等での実践を生かし、地域と協働しながら歩む姿勢を明確にしていきたい。